

愛媛県の地震

2021年（令和3年）8月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況（8月）	1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（8月）	2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震 の震度分布図（8月）	3
5. 地震一口メモ 大地震後の地震活動について	4

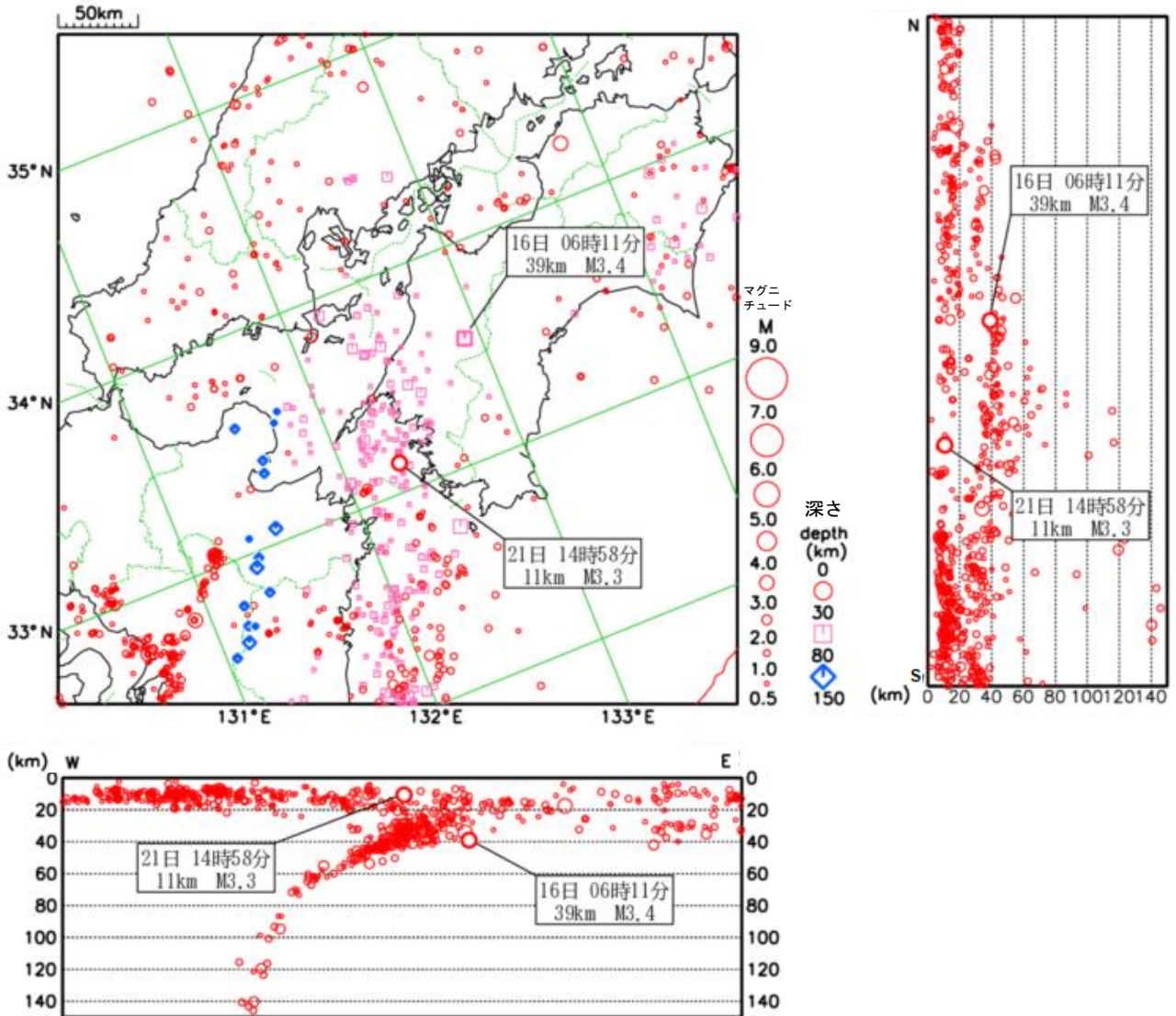
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2021年8月1日～8月31日]



震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。○より◇の方が深い場所で発生した地震です。
また、シンボルマークの大きさが地震の規模（マグニチュード）を表現しています。

2. 地震概況（8月）

上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうちM2.0以上の地震の回数は46回（先月は46回）、愛媛県内で震度1以上を観測した地震は3回（先月は5回）でした。

2日09時37分 広島県北部の地震（震央分布図範囲外：深さ6km、M4.4）により、愛媛県上島町で震度1を観測したほか、中国・四国地方で震度4～1を観測しました。

16日06時11分 愛媛県南予の地震（深さ39km、M3.4）により、愛媛県今治市・松山市・宇和島市・松野町で震度1を観測しました。

21日14時58分 豊後水道の地震（深さ11km、M3.3）により、愛媛県松野町で震度1を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（8月）

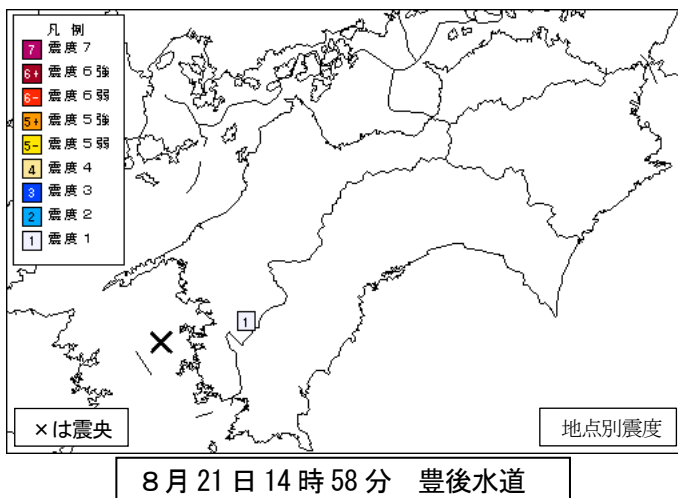
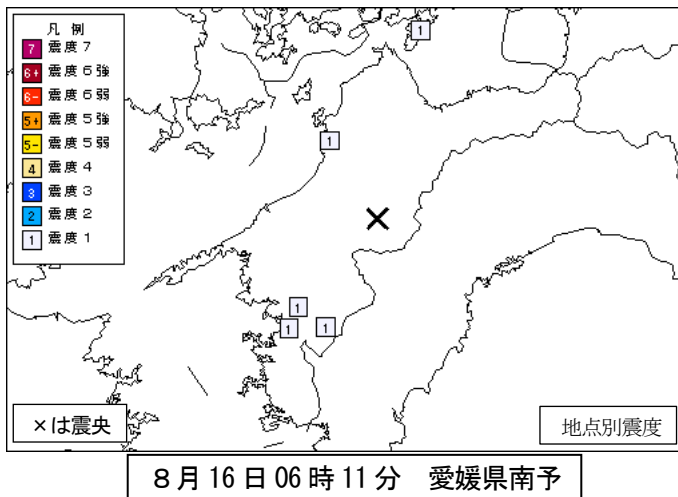
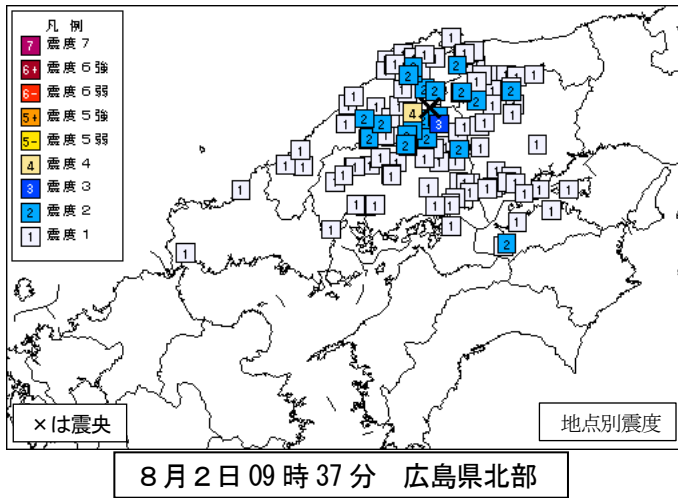
震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
愛媛県内各地の震度						
2021年08月02日09時37分	広島県北部	35° 03.7' N	133° 02.7' E	6km	M4.4	最大震度1
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 1：上島町弓削*						

2021年08月16日06時11分	愛媛県南予	33° 33.9' N	132° 54.8' E	39km	M3.4	最大震度1
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 1：今治市宮窪町*, 松山市富久町*, 宇和島市丸穂*, 宇和島市三間町*, 松野町松丸*						

2021年08月21日14時58分	豊後水道	33° 08.1' N	132° 18.7' E	11km	M3.3	最大震度1
----- 地点震度 -----						
愛媛県 震度 1：松野町松丸*						

注：*印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図（8月）



5. 地震一口メモ

大地震後の地震活動について

大きな地震の後には、多くの場合、その近くで引き続いて多数の地震（余震）が発生します。普段から大きな地震に備えることはもちろんですが、いざ大きな地震が発生した場合には、その後引き続いて発生する地震にも注意する必要があります。気象庁は、最大震度5弱以上が観測された等の大地震が発生した場合に、約1～2時間後から、今後の地震活動の見通しや防災上注意すべきこと等について発表しており、その主なポイントは以下のとおりです。

なお、気象庁は基本的に震度5弱の地震で資料による報道発表、震度5強以上の地震で記者会見による報道発表を行っています。

<大地震後の地震活動に対する防災上のポイント>

- ・1週間程度は、最初の大地震の規模と同程度の地震に注意することが基本です。
- ・特に、地震発生後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあります。
- ・付近に活断層がある、過去に同程度の規模の地震が続いて発生したことがあるなど、その地域の特徴に応じた呼びかけが発表された場合は、それにも留意してください。
- ・最初の地震の強い揺れにより、落石や崖崩れなどが起こりやすくなっている可能性があります。震度6弱など特に強い揺れのあった場合は、これらに加え、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性も高まっているおそれがあります。もう強い揺れを伴う地震は起きないとは決して思わず、その後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所には立ち入らないなど、身の安全を守る行動を心がけてください。

平成28年（2016年）熊本地震の発生を踏まえ、大きな地震の後に引き続く地震活動の様々な事例に対応可能な防災上の呼びかけを行うために、平成28年8月19日に地震調査研究推進本部地震調査委員会から「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」報告書が公表されました。大地震が発生した場合には、気象庁はこの報告書にもとづき、地震活動の見通しや防災上注意すべきこと等を発表します。

なお、「余震」という言葉は最初の地震よりも規模の大きな地震は発生しないという印象を与えることから、気象庁は同報告書の指摘に沿い、防災上の呼びかけ等においては、さらに規模の大きな地震への注意を怠ることのないよう、「余震」ではなく「地震」という言葉を使用します。

大地震発生後の地震活動の詳細は、気象庁ホームページをご覧ください。URLは以下のとおりです。

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/aftershocks/index_whats_aftershock.html

また、「大地震後の地震活動の見通しに関する情報のあり方」報告書は、地震調査研究推進本部ホームページをご覧ください。

https://www.jishin.go.jp/reports/research_report/yosoku_info/